

日進市立西小学校改築基本構想・基本計画（案）に関するパブリックコメント実施結果について

意見募集期間 令和8年1月26日（月）から令和8年2月27日（金）まで

意見提出者 10 名

提出意見数 52 件

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
1	1	浅田町下小深田に住む者です。 今1歳の息子が小学生になる頃に移転予定ですが、6歳の子が歩いて行くには距離が今の場所の倍近くになると思います。 車送迎にしたとしても朝は周辺道路が混雑して時間がかかるので、それに対してスクールバスなど何らかの措置があると助かります。	新しい学校は、子どもたちにとってより充実した教育環境となるよう準備を進めておりますが、一方で、移転に伴い一部の児童の皆様には通学距離が長くなり、毎日の登下校においてご負担をおかけすることになってまいります。 通学距離について、国は「小学校が概ね4 km以内」としていますが、本市では独自の基準として「小学校は3 km以内」としています。一部通学距離が4 kmを超えている児童について、公共交通機関（バス）を利用している児童がありますが、その他の児童は徒歩で通学している状況です。西小学校は移転しますが、西小学校区に住んでいる児童の通学距離は3 km以内であるため、スクールバス等の措置は現時点では検討しておりません。
2	2	西小学校の建て替えに当たって、現在の西小学校の教師・保護者・子どもたちから、アンケート調査や意見を聞いたことは大変良いことだと思います。 市は西中学校と隣接するメリットをいくつかあげられています。上の学年や下の学年との交流で思いやりが育つ、中一ギャップがなくなる、また施設（運動場・体育館設備品）を共通利用することで建設費、管理費が削減される等のことがあげられています。しかしすでに併設校（竹の山小・北中）の先生たちのアンケートの声は、異学年の交流は綿密に調整が必要のため大変、教職員の負担が大きい、授業時間が異なり連携が取りにくい、隣接しているが、実際交流は少ないと答えておられます。 教える教職員のゆとりが子どもたちのゆとりにつながっていると思います。西小学校独自の施設（体育館、運動場、その他設備）を是非整えてもらうことを願っています。	体育館や運動場について、新しい小学校は独自の施設を設置する予定です。小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
3	3	西小の卒業生です。現在地での建て替えを希望いたします。西小在学中に北棟と体育館の建築を経験しています。日中では、木造校舎を取り壊し、4階建ての校舎の建て替えを同じく経験しています。 日進市立西小学校改築基本構想・基本計画（案）についてコメントします。 【建て替え（移転）のメリット】 ①工事期間中の児童への影響が無い。 ②敷地面積が広がり新たな教育環境やバリアフリーなどへの対応が可能となる。 ③整形された使いやすい土地となる。 コメント ①について、現在赤池小で校舎の増築工事を実施中とのことですが、赤池小でできて西小できないのは、矛盾しているのではないかと。又、過去にできて現在できないのはなぜか。	老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。
4	3	②現在地での敷地面積で、運用上何か不都合が発生しているのか、狭いのであれば、現在地で土地の買い増しをできないのか。最悪、現在の日中みたいに、第二グラウンド方式で、面積を確保できないのか。	老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。
5	3	③現在地でも、土地の買い増し、道路や川の付け替えをして、成形した土地にできないのか。	老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
6	3	<p>【建て替え（移転）のデメリット】</p> <p>西小学校の適正化対策を進めていくうえでの懸念事項は次のとおりである。</p> <p>①移転候補地はハザードマップで浸水区域に指定されている。建設計画においては、水害対策について十分に検討する必要がある。</p> <p>②周辺道路が浸水した場合の児童の送迎に係る安全対策や住民の避難場所について検討する必要がある。</p> <p>コメント</p> <p>①市街化調整区域の農耕地で、より標高の高い、浸水の可能性の少ない地域の検討はできないのか。あるいは、次善策として西中のテニスコートのように天白川の堤防と同じ高さまで盛り土をできないのか。</p>	<p>新しい西小学校の建設場所については、概ね30,000平方メートルの敷地面積を確保し、かつ、西小学校区のおおよそ中心に位置する箇所を選定する必要があります。市街化区域内には空地が無く、土地の確保が困難であるため、市街化調整区域の農地を移転候補地とし、最もメリットが大きいと考えられる場所は「日進西中学校に近接する場所」だと判断しています。浸水対策対策について、具体的な手法を設計の際に検討してまいります。</p>
7	3	<p>②浸水地域への西小の移転により、洪水時の避難場所を減らすことは、日進市の都市マスタープランの考え方（立地適正化計画の方針）に反するのではないか。</p>	<p>洪水時の避難場所については、日進西高校や香久山小学校など他の施設の利用を検討しており、移転の際に改めて総合的に検討してまいります。なお、現在策定中の日進市立地適正化計画では、「小中学校は、居住地の周辺に立地することで利用がしやすくなる施設であり、学校区単位で立地が必要な施設」としており、都市マスタープランの一部である立地適正化計画の考え方に反するものではありません。</p>
8	3	<p>全体的なコメント</p> <p>民間で、100億円のプロジェクトを検討するフィージビリティスタディから比較すると①現在地建て替え②西中横移転の計画の詳細及び比較が提示されておらず、コスト的比較検討ができない。（例えば、建築費、土地購入費の比較）最初に西中横に移転ありきであり、現在地建て替えを否定する論拠中心に構築されているのではないか。</p>	<p>老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。</p>
9	3	<p>西小が、現在地で建て替えが困難で移転が必要であるならば、今後同じような時期に校舎、体育館を建築した東小、北小、日中、追いかけて南小、西中にそれぞれ100億円を投じる財政的余裕及び敷地確保が日進市にできるのか。⇒現在地の方がトータルコストは安くなるのではないか。</p>	<p>各学校の適正化対策については、個別に検討してまいります。</p>
10	3	<p>現在地の方が建設のリードタイムがかかるとのことだが、西中横の土地の地権者の合意はすでにとれているのか、とれていない場合、買収が難航してむしろ現在地の建て替えより遅延するのではないか。</p>	<p>基本設計において、移転先の土地が確定し次第、土地所有者との用地交渉を進めてまいります。西小学校の移転について、ご理解ご協力が得られるよう、丁寧に説明してまいります。</p>
11	3	<p>移転先は、現在の西小と比較して、児童の人口の重心から、より離れた立地になり、累積の通学距離が増え、児童の負担が増えるのではないか。</p>	<p>新しい学校は、子どもたちにとってより充実した教育環境となるよう準備を進めておりますが、一方で、移転に伴い一部の児童の皆様には通学距離が長くなり、毎日の登下校においてご負担をおかけすることになってまいります。</p> <p>通学距離について、国は「小学校が概ね4 km以内」としていますが、本市では独自の基準として「小学校は3 km以内」としています。西小学校は移転しますが、西小学校区に住んでいる児童の通学距離は3 km以内となります。</p> <p>通学距離が延びることに伴う不安を少しでも解消できるよう、通学路の点検や見守り活動の強化など、対策を検討してまいります。</p>

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
12	4	西小学校の適正規模及び適正配置については、検討委員会、検討部会の議事録を閲覧した。委員会、部会とも1回目の議論で、移転する方がよいのか、現地の敷地拡張がよいのか、両論、意見として出されていたにも関わらず、8月に行われた住民説明会では建て替え移転案が、西中近辺を候補地として最もよいと提案された。たった1回ずつの議論で、建て替え移転案に決まったかの説明に、最初から移転ありきだったのではないかと疑われる。委員会、部会とも十分論議したとは言えず、とうてい住民説明会も住民の意見を聞くために行うはずが、最初から結論が決まっていた。保護者アンケートの回答数も89件と、とても住民、保護者の意見を集約したとは言い難い。従って、さらに丁寧な住民説明会を西小保護者、西小学区住民対象はもちろん、広く日進市民対象に複数回、行っていただきたい。会場も、西小学校、西中学校で行っていただきたい。	老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定していますので、新たな説明会の開催は予定しておりません。
13	4	「西中学校と隣接させることによるメリット」について、小中併設校の良さが説明されているが、この良さについては子ども達のアンケート等に数値として表れているのか。日進北中・竹の山小学校教職員の回答はあっても子どもの併設校に対する意識調査は行われていない。また、教職員の回答の中には「プールの共用のため、プール使用ができない時がある」とか、「施設利用の調整に苦労する」とか「日課や行事、時間や運営の調整が増加し、教職員への負担が大きい」など、併設校であるが故の課題や施設共用等で苦労しているとの回答が多い。この教職員の意見を考慮するならば、西小学校はわざわざ西中学校に併設する必要はないし、ましてや施設や備品等の共用はするべきではない。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
14	4	ラーニングセンターを中心とした校舎の建築が想定されているが、もともと小学校は低学年向け図書館と3年生以上の図書館と分かれており、それぞれ発達に合わせて、蔵書が準備されていて、とても使いやすかった。ラーニングセンター以外にも低学年向け図書室を設置してほしい。	貴重なご意見として承ります。
15	4	普通教室数が令和9年度以降の児童数を想定した30教室と計画されているが、もっとこれ以上、空き教室を作してほしい。多目的スペース、ワークスペース等が予定されているが、子どもがクールダウンできる部屋、個別に指導できる部屋、相談室等が必要である。	新しい西小学校では、自由に使える空間として、現在の西小学校にはない広いワークスペースの設置を検討しています。「クールダウンできる部屋」、「個別に指導できる部屋」、「相談室等」については、学校と調整を行いながら検討してまいります。
16	4	特別支援学級が竹の山小学校のように、他の教室や職員室、保健室から離れた校舎の隅に置かれ、目に着かないようにされているのは問題である。基本構想にうたっているように、インクルーシブの観点からも、広く交流でき、職員室、保健室からも近く、学校を中心にすえたい。	特別な支援を必要とする児童は、一人一人必要とする教育環境が異なります。こうした児童に良好な教育環境を確保するため、学校運営にも配慮しながら、適切な教室配置について検討してまいります。
17	4	「中学校との交流」で、「中学校の乗り入れ授業や施設共用を想定し、ゆとりある施設を検討する」とあるが、乗り入れ授業や施設共用こそ、ゆとりをなくすものである。教職員のアンケートからもそのことはうかがい知れるのであって、撤回していただきたい。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
18	4	新しい西小学校に新給食室か第2給食センターを造っていただきたい。今の給食センターは少ない従業員で1万食を作っている現状から、調理、配送等でキャパオーバーであるし、従業員の熱中症等、健康被害も伝え聞く。日進市は給食に力を入れていこうとするなら、せめてもう一つ給食センター等、施設が必要である。	給食センターは基本方針として共同調理場方式を継続することとしていることから、西小学校での給食室の設置は考えておりません。
19	4	令和9年度からの「コミュニティスクール構想」について具体的な説明がほしい。	「コミュニティ・スクール」について、初出時に注釈を入れます。なお、コミュニティ・スクールの詳細については、文部科学省のホームページをご確認ください。 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm)

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
20	5	令和6年の住民説明会で移転による建て替えが最善であると、移転ありきで説明会が進められた。また、この説明会以降説明会は全く開催されず計画が進められており、市に不信感を持つ市民も多い。西小学区だけでなく市民を対象とした説明会を今からでも開いて欲しい。	老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定していますので、新たな説明会の開催は予定しておりません。
21	5	移転先が浸水地域であり、子供達の安全が保障されない。盛り土等の安全対策をするとあるが、科学的根拠が示されていない。 また、水害時には避難所として開設されない可能性があるにも関わらず、地域住民の避難所について検討されていないのは問題ではないか。浸水対策として校舎全体のかさ上げや教室を2階以上に配置することも検討とあるが、現在地で建て替え困難な理由に高低差を挙げていることと矛盾するのでは。	移転先はハザードマップにおいて浸水区域となっておりますが、児童の安全を確保するため、盛り土などの浸水対策を実施します。 避難所については、災害の状況等を総合的に判断して開設を行っていくものとなりますので、新たに拠点避難所として指定した県立高校や2次避難所も活用して対応を行います。 移転することについては、様々な検討を行い、複合的な理由により現在地での建て替えではなく移転することを決定しております。
22	5	30クラス規模の学校を想定しているが、文科省は18クラスを適正規模としており、大規模校のデメリットとして、子ども達1人ひとりが活躍する機会が少なくなる事を指摘している。 また、教職員や保護者へのアンケートで「きめの細かい指導」を望む回答が上位にある。大規模校ではきめの細かい指導を行うのは困難である。大規模校を分離新設して適正規模の学校を増やす事で、子どもたちにきめの細かい指導をして欲しい。地域ごとに学校があれば通学時間も短くなり、子供達の負担も減ることになる。	地域ごとに異なりますが、本市においても、2020年をピークに15歳未満人口の減少が始まっています。今後も15歳人口未満が減少していくことや、西小学校校舎の老朽化などの複合的な理由により、新設校の建設との判断には至っておりません。
23	5	併設に近い学習環境を創設することについて、教員のアンケートにも併設の問題点として ・運営や時間の調整が増加し、教職員への負担が大きい。 ・授業時間が異なるため、連携が取りにくい。 ・どちらかの行事が気になり、授業に集中できない。 ・小中では日課が違うため調整が大変 などの問題点が挙げられている。特に西中と西小では規模が大きすぎるので、併設に近い環境にすることは教職員の負担を増やし、子供達の学習環境に悪影響を及ぼす可能性が大きいのでやめて欲しい。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
24	5	現在の西小学校は子供達のアンケート結果からも、施設の老朽化により非常に劣悪な学習環境となっている。新しい校舎の完成まで子供達を我慢させるようなことはあってはならない。特に体育館のエアコンは、子供達の命と健康にかかわることなので、他校と同じように設置すべきである。	西小学校体育館の空調設備につきましては、数年後に移転する予定があるため、他の小学校と同様の設備は設置せず、その他の代替手法について検討を行っております。
25	5	移転した場合、跡地の活用については結論を押しつけるのではなく、市民の意見を聞いて進めて欲しい。	現在の西小学校につきましては、校舎については老朽化が進んでおり、今後の利用は困難であることから、移転後の取り壊しを予定しております。跡地の活用につきましては、現時点では具体的に決定している事項はございませんが、これまで長い間地域に親しまれてきた学校であり、シンボルである「クスノキ」については、何らかの形で残していくことを考えております。今後、地域の皆様にどのような形でご利用いただけるのか、検討を進めてまいります。
26	6	浸水地域に移転することには反対してきました。盛り土や地盤改良をして対応するとのことですが、今の気候危機の中で児童の命と安全が本当に保証されるか心配です。	移転先はハザードマップにおいて浸水区域となっておりますが、児童の安全を確保するため、盛り土などの浸水対策を実施します。
27	6	登下校や災害時の安全（熱中症対策）を移転後ではなく今から検討してください。登下校時に現場に行って車の動きと西中生徒の動きを把握してください。更に小学生1,000人近くがどのルートで登下校するのかシュミレーションしてください。熱中症対策はすぐにでも必要です。	登下校の安全については、特に児童が集中する正門の位置が大きく影響します。また、交通状況も道路の開通や店舗の開店等により変化するため、開校に向けて順次検討してまいります。熱中症対策についても、他自治体の取組を参考にしながら対応してまいります。
28	6	中学校との施設共有を想定とあるが大規模な小中学では出来ないし、しないでほしい。北中、竹の山小の先生のアンケートにもあるが教職員への負担が大きい、日課が違うため調整が大変とある。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
29	6	西小学校教諭のアンケートにもあるが1学年に1教室の多目的室のような自由に使える空間がほしい。	新しい西小学校では、現在の西小学校にはない広いワークスペースの設置を検討しています。
30	6	日進市は大規模小学校、中学校が多すぎる。児童、生徒数が増えると学区を変更して子どもたちに犠牲を強いてきたが、今後はもう1校ずつ小、中学校が必要だと思う。検討事項にもあるが、きめ細かい指導や多様な学習が可能な学校施設を考えたらもう1校必要です。	地域ごとに異なりますが、本市においても、2020年をピークに15歳未満人口の減少が始まっています。今後も15歳人口未満が減少していくことや、西小学校校舎の老朽化などの複合的な理由により、新設校の建設との判断には至っておりません。
31	6	住民説明会を開催してください。市民誰でも参加可能な会を複数回開催してください。	西小学校の移転改築について、市内全域の方を対象とした説明会の開催は予定しておりません。
32	6	今の西小学校を避難所として残してください。	現在の西小学校につきましては、校舎については老朽化が進んでおり、今後の利用は困難であることから、移転後の取り壊しを予定しております。跡地の利用につきましては、現時点では具体的に決定している事項はございませんが、これまで長い間地域に親しまれてきた学校であり、シンボルである「クスノキ」については、何らかの形で残していくことを考えております。今後、地域の皆様にどのような形でご利用いただけるのか、検討を進めてまいります。
33	6	10,000食近く毎日給食を作っている今の給食センターは限界だと思います。西小学校移転所近くにもう一つ給食センターを作ったらどうでしょうか？	給食センターは基本方針として共同調理場方式を継続することとしていることから、西小学校での給食室の設置は考えておりません。
34	7	<p>■現西小施設・設備が極度に劣悪。直ちに改修・改善を実施して児童の生活を保障して！</p> <p>(1)「西小学校の沿革」では、南館、北館、体育館ともに竣工から半世紀以上経っています。平成30年から令和7年までの改修・補修は、体育館のトイレと屋根と躯体補修、校長室、職員室、PC室のみ。肝心の児童のための環境・学校施設は放置されたままです。</p> <p>(2)「学校関係者」へのアンケートを見ると、児童からは「トイレ」。「げた箱」、「遊具」、「床の壊れ」、「図書室の検索機・返却機」、「体育館のエアコン」など毎日の切実な要望であふれています。今、在学している子供たちの学校生活を保障してください。</p> <p>(3)市は、体育館のエアコンは、「(建て替えになるので)エアコンではない方法で検討」との答弁があったそうですが、①②で述べたように、長い間、児童のための教育環境に注意を払えず児童の思いを放置してきた責任はとても重い。血の通った行政とは思えません。担当部局含め市は深く反省して、他の小学校同様、この夏休みの期間にエアコンの設置に向け予算措置を講じて実施してください。これは必ず実施しないとイケないことです。</p>	<p>学校施設の改修については、計画的かつ効率的な改修に努めてまいります。</p> <p>西小学校体育館の空調設備につきましては、数年後に移転する予定があるため、他の小学校と同様の設備は設置せず、その他の代替手法について検討を行っております。</p>

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
35	7	<p>1 西小・西中の学校教育の具体的な実施・運営面からの問題点</p> <p>(1) 大規模校同士を隣接させて、竣工時には、およそ60学級、2,000名近い児童生徒を集め「連携を図る」というのは、教職員・児童生徒ともに教育環境として無理があると思いますし無謀とさえ思われます。</p> <p>「学校教育法の手引き」では、小中学校ともに、事情による柔軟性は認めるにしても12～18学級を標準としています。そして、大規模校及び過大規模校になると、「①役割分担のない子ができる可能性があり ②異学年交流がしにくくなり ③児童生徒間の人間関係が希薄化する ④児童生徒の個性や行動を把握し、きめ細やかな指導が困難で、問題行動が発生しやすい」などを指摘しています。つまり、それぞれの小中学校においてさえ、教職員の目が行き届かなくなり児童・生徒がバラバラになる可能性が高まると言っているのです。</p> <p>その指摘を踏まえて、計画(案)「(3)適正化対策及び建設場所の検討結果」の記載事項を見ますと、「土地取得・建設工事が容易で、一部施設や備品の共有によって建設費や維持管理費が削減できる」ことがメリットの主眼になっていることがわかります。</p> <p>(2) さらに、「学校教育法の手引き」の指摘にかかわらず、「一部施設や備品の共有」をメリットとするのは、北中・竹の山小の教職員の教訓を「参考に」と言いながら、施設・備品を共有した時の調整・再調整の困難さや職員と児童が振り回され硬直化する「連携困難な教育現場の実態」など大きなデメリットを無視して、あたかもメリットであるかのように強弁するものです。土木・建築部局サイドの視点を最優先して、つくるのは子供たちを育てる教育の場だという視点が欠落していることは明らかです。教育長や教育部局の関りや役割が、ほとんど果たされていないと考えざるをえません。</p> <p>(3) 西小と西中のような大規模校は隣接させず、安易な施設・備品共有あるいは特段の連携などさせないで、独立させてそれぞれ設備の充実を図り、各学校の教職員と地域住民とで「手引き」で指摘されているデメリットの克服に努め、そのうえで、可能な連携を図ることが、児童生徒の教育の中身を高める道であると思います。</p>	<p>小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。</p>
36	7	<p>2 学校・児童生徒・地域住民コミュニティーなど防災上の問題点</p> <p>(1) この問題は、単刀直入に言えば、市長以下、建て替え計画担当部局が、市自ら作成した「防災計画の洪水ハザードマップ」を絵空事としてしか受け止めていないことを強く感じます。</p> <p>あるいは、ここでも「土地取得・建設工事が容易で、一部施設や備品の共有によって建費は維持管理費が削減できる」ことを最優先したうえ移転ありきで、防災上の観点、さらに関係住民を軽視しているのではないかと考えられます。</p> <p>そうでなければ、児童や地域住民の生命にかかわる防災上の問題をクリアする具体的な対策を同時に学校や関係住民に提示することなしに、単なる「懸念事項」として先送りするような計画(案)の提示・説明などできるはずのない重要な事柄です。</p> <p>(2) 洪水ハザードマップでは、すでに、日進中学校と日進西中学校とが0.5m～1m未満の浸水が予測される地域にあります。西小を西中に隣接させれば、さらに、わざわざ西小が浸水の予測される地域に移されることとなります。仮に、西小学校敷地部分を嵩上げたとしても、周囲の浸水によって孤立状態となり防災上の機能が十分果たせなくなるのは明らかです。</p> <p>(3) 浸水予測地域は天白川に沿った地域一帯ですが、その地域内住民を含め被災者が一定期間滞在することを予定し、物資も配備される拠点避難場所に位置付けられています。東小・東中・西小などは、浸水予測地域に隣接する小中学校ですが、浸水予測地域と密接に関係する、これら5校のうち実に3校が浸水予測地域内の施設ということになってしまうのです。</p> <p>防災上の問題を考えたときに、これもまた、市の防災関係部局の関りや役割が果たされていないと考えざるをえません。</p>	<p>移転先はハザードマップにおいて浸水区域となっておりますが、児童の安全を確保するため、盛土などの浸水対策を実施します。</p>
37	7	<p>3 以上の点から、この計画(案)は、当初から土木・建築部局サイドの意向(土地の確保・土木・建築条件など)を優先し、移転を前提にした検討委員会、住民説明会、関係者アンケート調査、などが行なわれて、教育部局や防災部局との綿密な検討や調整など総合的な検討が十分行われていない内容であると言わざるをえません。</p> <p>西小学校・西中学校各学校の学校教育の具体的な実施・運営上、また学校・児童生徒・地域住民コミュニティーなど防災上の観点から考えますと、西小学校は、現在の場所周辺農地などに拡張して建て替えることが、理にかなっていると思います。</p> <p>切に再校を望みます。</p>	<p>西小学校の移転については、老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。</p>

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
38	8	①改築するにあたり、今後の児童数の予測が書かれていません。 1番重要な情報がないと思います。巨大な小学校を移転新築して児童が減ることはないのでしょうか？「現在の西小学校を長寿命化すると30年足らずで建て替えが必要」と説明していますが、30年後の児童数推計を出して、これだけの児童がいるから巨大な小学校が必要だという説明をしてください。全国的には少子化です。現在の西小学校を長寿命化して使用し、西中学校の近くに500人くらいの規模の小学校を分離新設し、児童が減ったら西小学校は廃校にするという方法も考えられます。	児童数の予測は、令和12年度まで行っております。令和13年度以降の推計について、地域別の推計を活用して学校別の児童生徒数を推計する場合には、将来の変動幅が大きくなりやすいことから、慎重に判断する必要があります。現時点ではおこなっておりません。
39	8	②建設場所について、浸水想定区域への移転には反対です。 子どもの安全が心配です。水害時、保護者が迎えに行けません。たくさんの児童を教職員は水が引くまで世話をしないとイケません。水害時の対策や避難訓練も現在地での建て替えなら不要です。現在地での拡張建て替えも工夫すれば安全や騒音に配慮して工事はできるはず。はじめから移転ありきの説明と十分な議論もせず決定したことに納得していません。	西小学校の移転については、老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。 移転先はハザードマップにおいて浸水区域となっておりますが、児童の安全を確保するため、盛土などの浸水対策を実施します。
40	8	③浸水想定区域に建設するため、体育館は2階になるのでしょうか？ 災害時の避難所としても使用しますが、車椅子の人や高齢者が階段を登れないという問題がでてきます。水害対策とバリアフリーどちらにも対応する施設が必要です。	体育館の浸水対策については、バリアフリーと両立できる手法を検討してまいります。
41	8	④巨大な小学校を造る計画なので、短い休み時間に無理なく移動できるよう児童たちの動線を考えて設計してください。 ぜひ、教職員の意見を聞いてください。地域連携や地域開放などを推進していますが、防犯が心配です。	児童の導線については、教職員の意見も聞きながら検討してまいります。また、地域と学校が連携し「学校を核とした地域づくり」を進めてまいります。併せて、防犯性を備えた学校となるよう整備してまいります。
42	8	⑤西中学校に近接することがメリットと説明していますが、教職員アンケートを見ても施設の調整などデメリットが多く書かれています。 隣接、施設共有しないでください。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
43	8	⑥住民説明会は2回だけ。その時は「まだ移転は決定ではない」と説明していました。決まってから1回も住民説明会がないのは不誠実です。複数回、丁寧な説明会を行ってください。	西小学校の移転については、老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。移転方針が決定した旨の説明会の開催は予定しておりません。
44	8	⑦西小学校の跡地利用について。 市長や市役所職員だけで決めないでください。また、区長や小学校PTA役員など一部の人が入れれば良いというものでもありません。 学校の土地は市民の財産です。全市民に広く意見を聞く会を開いて、市民参加で決めてください。今回、移転した場合でも、現在の西小学校跡地は防災広場や公園などとしてそのまま使用し、たとえば100年後に再度移転して元の場所に戻れるようにしてください。売って宅地開発をしまうと2度と買い戻すことはできません。あの土地を手放してしまうと浸水想定区域以外の広い土地はありません。	現在の西小学校につきましては、校舎については老朽化が進んでおり、今後の利用は困難であることから、移転後の取り壊しを予定しております。跡地の利用につきましては、現時点では具体的に決定している事項はございませんが、これまで長い間地域に親しまれてきた学校であり、シンボルである「クスノキ」については、何らかの形で残していくことを考えております。今後、地域の皆様にどのような形でご利用いただけるのか、検討を進めてまいります。
45	8	⑧中津川市立福岡小学校を先進事例と紹介していますが、インターネットで調べると福岡小学校は児童数253人、隣接する福岡中学校の生徒数は154人だそうです。西小・西中とは規模が全然違います。同じように交流や施設共有するのは無理です。隣接させたいのであれば、小中併せて2000人の学校へ視察へ行き調査してください。先進事例がないのであれば、それは規模が大きすぎて難しいのだと思います。失敗事例にならないためにも無理な隣接・施設共有はやめてください。	小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。
46	8	⑨水道からお湯が出るようにしてください。感染症対策としても手洗いは推奨されています。 冬は水道の水が冷たくて、子どもたちはきちんと手を洗いません。太陽光パネルを設置するなど工夫してお湯が出るようにしてください。	貴重なご意見として承ります。他の学校を含め、学校と調整してまいります。
47	8	⑩女子トイレの数を増やしてください。	貴重なご意見として承ります。他の学校を含め、学校と調整してまいります。

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方																																																																
48	8	①児童アンケートにトイレの改善など切実な声がたくさん書かれています。移転を待たずに今すぐ現西小学校で改善できることはしてください。	学校施設の改修については、計画的かつ効率的な改修に努めてまいります。																																																																
49	8	②現西小学校の体育館にもエアコンを設置してください。公教育なのに西小学校にだけ設置されないのは不公平です。公立高校のようにリースするなど方法はあります。	西小学校体育館の空調設備につきましては、数年後に移転する予定があるため、他の小学校と同様の設備は設置せず、その他の代替手法について検討を行っております。																																																																
50	9	<p>意見1 西小学校は現在地で縮小し建て替えて分離新設校も建設を</p> <p>①はじめに 小中学校は施設が足りなから学齢に達していても入学できませんということは許されません。保育園のような待機児童は学校においては在りません。何としても受け入れるのが自治体の責任です。しかも学級定員なども決められています。自治体の裁量は限定的です。従って児童生徒が増えたら学校施設をふやすしか在りません。日進では増築しそれでも足りなければより広い敷地を求めて移転する、学区再編する、または分離新設してきました。児童生徒が増える自治体にとってはいかに計画的に学校施設を増やすのかが第一義的な課題です。しかも市内でも区画整理やマンションの建設が進む地域など地域ごとに人口増減がありより精密な推計が求められています。</p> <p>②日進の学校建設の沿革 この表の新設以外にも増改築や教室の転用、学区再編を繰り返してきました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名(現校名)</th> <th>開設年</th> <th>人口(4・1)</th> <th>注記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西小学校</td> <td>1906年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>北小学校</td> <td>1911年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東小学校</td> <td>1912年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日進中学校</td> <td>1947年</td> <td></td> <td>6・3制の実施 畑を転用</td> </tr> <tr> <td>*北小学校移転</td> <td>1967年</td> <td>14772</td> <td>集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成</td> </tr> <tr> <td>*東小学校移転</td> <td>1971年</td> <td>22084</td> <td>集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成</td> </tr> <tr> <td>南小学校</td> <td>1973年</td> <td>26284</td> <td>集落の近くの丘を造成</td> </tr> <tr> <td>相野山小学校</td> <td>1978年</td> <td>34915</td> <td>五色園団地に隣接した山林を造成</td> </tr> <tr> <td>日進西中学校</td> <td>1978年</td> <td>34915</td> <td>耕地整理済みの圃場を転用</td> </tr> <tr> <td>香久山小学校</td> <td>1993年</td> <td>51395</td> <td>住都公団による区画整理と一体に山林を造成</td> </tr> <tr> <td>梨ノ木小学校</td> <td>2002年</td> <td>70181</td> <td>栄地域に隣接したトヨタ所有の山林を買収し造成</td> </tr> <tr> <td>赤池小学校</td> <td>2008年</td> <td>80680</td> <td>区画整理地内の土地を買収</td> </tr> <tr> <td>竹の山小学校</td> <td>2013年</td> <td>86099</td> <td>小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用</td> </tr> <tr> <td>日進北中学校</td> <td>2013年</td> <td>86099</td> <td>小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用</td> </tr> <tr> <td>現在の人口</td> <td>2026年</td> <td>93881</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③学校規模の適正化方針の尊重を 2000年代の初めころにはこの間の学校建設と増設、改築などの経過は常に後追いでありマ31学級以上のンモス校となったりプレハブ校舎であったり学区再編が繰り返されるなどして児童生徒の教育環境を十分に保証できていないという認識が市と議会で共有されるようになりました。そこで市は教員、PTA代表、市民、有識者などによる委員会での審議を経て2008年に「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を決定しました。私もその委員の一員として議論に参加し1年間にわたって何回もの議論や、市として初めての全教職員の意識調査や保護者のアンケートなど教職員と市民の合意の上に「学校規模の適正化」という認識が生まれ計画的に後追いではなく学校を整備していくことが方針となりました。この指針は2020年に改訂されましたが適正規模の基準は維持されています。これは今回の基本計画のP5でも再確認されています。つまり指針は適正規模をめざすことを明確に求めているのです。この指針策定当時に一気に解決することは出来ない事を認めたくらうで市の基本方針としています。策定にあたって教員のアンケートなどから大規模校</p>	学校名(現校名)	開設年	人口(4・1)	注記	西小学校	1906年			北小学校	1911年			東小学校	1912年			日進中学校	1947年		6・3制の実施 畑を転用	*北小学校移転	1967年	14772	集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成	*東小学校移転	1971年	22084	集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成	南小学校	1973年	26284	集落の近くの丘を造成	相野山小学校	1978年	34915	五色園団地に隣接した山林を造成	日進西中学校	1978年	34915	耕地整理済みの圃場を転用	香久山小学校	1993年	51395	住都公団による区画整理と一体に山林を造成	梨ノ木小学校	2002年	70181	栄地域に隣接したトヨタ所有の山林を買収し造成	赤池小学校	2008年	80680	区画整理地内の土地を買収	竹の山小学校	2013年	86099	小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用	日進北中学校	2013年	86099	小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用	現在の人口	2026年	93881		<p>西小学校の移転については、老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。</p> <p>地域ごとに異なりますが、本市においても、2020年をピークに15歳未満人口の減少が始まっています。今後も15歳人口未満が減少していくことや、西小学校校舎の老朽化などの複合的な理由により、新設校の建設との判断には至っておりません。</p>
学校名(現校名)	開設年	人口(4・1)	注記																																																																
西小学校	1906年																																																																		
北小学校	1911年																																																																		
東小学校	1912年																																																																		
日進中学校	1947年		6・3制の実施 畑を転用																																																																
*北小学校移転	1967年	14772	集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成																																																																
*東小学校移転	1971年	22084	集落の中で拡張の余地なく集落の近くの丘を造成																																																																
南小学校	1973年	26284	集落の近くの丘を造成																																																																
相野山小学校	1978年	34915	五色園団地に隣接した山林を造成																																																																
日進西中学校	1978年	34915	耕地整理済みの圃場を転用																																																																
香久山小学校	1993年	51395	住都公団による区画整理と一体に山林を造成																																																																
梨ノ木小学校	2002年	70181	栄地域に隣接したトヨタ所有の山林を買収し造成																																																																
赤池小学校	2008年	80680	区画整理地内の土地を買収																																																																
竹の山小学校	2013年	86099	小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用																																																																
日進北中学校	2013年	86099	小中併設校 区画整理地内の緑地予定地を買収転用																																																																
現在の人口	2026年	93881																																																																	

意見番号	意見者番号	意見の内容（意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方
		<p>では一人一人の児童生徒に行き届いた教育を保障できないという認識が示された事も適正規模化を後押ししました。更に学校現場からは少人数学級を求める意見も多く寄せられました。もともと適正規模とは文科省では18学級とされています。ところが西小学校改築基本構想・基本計画（案）には適正化に向けての検討など一切ありません。</p> <p>④学区内、および隣接学区内の乳幼児、児童数の推移を示すべき 2013年に竹の山小・北中学校が建設されてから10年以上学校建設は在りません。その前の10年間は赤池小、梨の木小、香久山小の3校、その前の10年も3校建設しています。人口の増加は緩やかになっていますが学区によっては急増している場所もあります。児童生徒の増加を学区の変更や増設などでしのいできました。し寄せは児童生徒と教職員に行っているのではないのでしょうか。パブリックコメント募集にあたっては隣接学区別の乳幼児や学齢期の子どもの方数の推移を市民に示して意見を求めるべきです。</p> <p>⑤基本に立ち返って再検討を 本基本構想は西小のクラス数を2027年度以降30学級の大規模校が続くと試算しています。これは適正規模化を求める指針に反するものであり得ません。新設移転する機会に適正規模化の方針を決めた以上その実現をめざすのが自治体の責任です。ところが案のp21「に懸念事項」があげられていますが大規模校が続くということが懸念事項に挙げられていません。このような認識の是正を求めます。「基本方針」に従って西小を現在地で規模を縮小して適正化し建て替え、同時に分離新設校を建設するように基本構想を見直すことを提案します。赤池小学校もこれ以上増築できないところに来ています。すぐ赤池小の分離も必要になるので西小と赤池小の2校を合わせて3校に再編する計画に切り替えるべきです。勿論それにはさらに時間が必要で児童には迷惑が掛かります。市の西小建て替えの取り組みがあまりにも遅すぎたといえます。断腸の思いですが行政がしっかり反省することが必要です。このまま見過ごすことは後世に悔いを残すことになるでしょう。学校は100年先も続く市民の財産です。</p>	<p>市の考え方</p>
51	9	<p>意見2 小中併設校にしてはならないし併設効果もない</p> <p>文科省は小中学校の建設にあたって併設を進めています。これは全国的に見れば少子化が進行し従来通りの学校数を維持できない、学校数を減らし経費削減をはかる、不要になった学校用地を民間で活用し収益をあげるなどをめざしているのではないのでしょうか。今回の西小の基本構想では西中に接して建設することによる併設効果を強調しています。しかし、小規模校ではなくそれぞれ1000人近い規模の児童生徒が狭い場所に密集するのは安全や教育環境上問題があります。この基本構想では竹の山小と北中の教員のアンケートも紹介され効果が強調されています。しかし、竹の山両校は人数が少なくゆとりもあるという面もあります。基本構想では併設が先あって予定地としたように見えます。そのため後付けで併設効果を強調しているのではないのでしょうか。一人一人の児童生徒に目が行き届いた環境を保障するという点からは併設はあってはならないと思います。63制がなぜ決められたのかを基本構想に書き込んではどうでしょう。児童生徒の発達段階に小学校と中学校が対応するという点でも併設校になる西中横の予定地への移転は賛成できません。</p>	<p>小中併設校にはメリットとデメリットがありますが、日進北中学校・竹の山小学校の事例や先進事例を踏まえ、近接することによる多くのメリットを享受できるように計画を進めてまいります。</p>
52	10	<p>1) P21の(3) 適正化対策及び建設場所の検討結果 イ 新しい西小学校の建設場所について の部分に「最もメリットが大きいと考えられる場所は「日進西中学校に近接する場所である」と結論だけが書かれてありますが、検討にあたっては3か所候補地がありました。そのことが何も記載されていないのは問題だと考えます。決定された場所の南にも候補地があり、ハザードマップの浸水度が比較的軽減され、一団の土地も確保できる場所が候補地になっていました。そのことも記載することが、責任ある行政の姿勢だと思います。</p>	<p>西小学校の移転については、老朽化、児童数の増加に伴う教室数の不足、敷地面積の狭小などの課題に対応するため、令和6年度に西小学校の適正化について検討し、「日進西中学校の近接地へ移転する」という方針を決定しています。</p> <p>ご指摘に関する記載は、令和6年度に日進市立小中学校適正規模等検討委員会がとりまとめた「日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する具体的方策について（提言）」に記載されていますので、本基本構想・基本計画へは記載いたしません。</p>